

UNIV.CO-OP 2030Goals

策定の目的

- ① 大学・大学コミュニティ・社会状況の変化を踏まえ、大学生協の価値を確認する。
- ② 大学生協が存続し大学コミュニティに貢献し続けるための、具体的な戦略目標と目標達成のための行動指針を明らかにする。
- ③ 2030Goalsの主体的取り組みが、組合員・大学・社会への貢献を増大させ、21世紀中盤での大学生協の存在を確固たるものにする。

コロナ禍と大学生協

- ① コロナ禍で、大学生協は経営的にも組織的にも極めて甚大な影響を受ける。
- ② 「学生にとっての3つの危機（暮らしの危機、学びの危機、コミュニティの危機）」 「大学生協にとっての3つの難局（経営の難局、コミュニティ形成の難局、生協組織の難局）」として位置づける。
- ③ 「組合員の暮らしの向上」を実現する大学生協の「再生」へ。

2030Goalsへ

- ① コロナ禍によるさまざまな変化は、近い将来に起きたであろうことが、前倒し、あるいは局所的に強調された形で起きているもの。
- ② 2030Goalsを指針として、大学生協の「再生」と「本質的な経営対策」を確信をもって進めていく。
- ③ コロナ禍によって、2030Goals策定の意義はより一層明確に。

2030年に向けて予測される社会・大学・学生の変化、求められる大学生協の変化

大学のあり方・大学の経営課題

- グローバルに進む学生の流動化と大学の個性化の加速。
- 18歳人口の減少、大学間競争、大学再編の加速。
- キャンパス内コミュニティから地域や学外ともつながるコミュニティへ、大学コミュニティの再創造。
- コミュニティ形成を促進する協同組合の役割発揮＝大学の魅力づくりにつながる大学生協の事業活動へ。
- 大学・教職員の繁忙化により、大学業務（正課・正課外）をサポートする生協の役割発揮の機会増加。

学生を取り巻く環境、学生の生活や意識

- 「おしゃべり・語らいの場」、気軽に安心に集える場としての大学生協の認知を高める。
- 学生を中心とした組合員の行動・チャレンジに応える大学生協・大学生協職員の役割が求められる。
- 学内構成員の協同を生み出す場づくり・仕組みづくり。
- 学生委員会の活動を「やってあげる」から「一緒にやろう」に変えていく。
- 大学生協を通じて組合員が「輝ける」場面を作る。

大学での教育・学び

- アクティブラーニング・オンライン活用による教育方法、教材の変化（紙から電子への移行）が加速する。
- デバイス、コンテンツ、サポートを融合させた学習・教学支援の推進が求められる。
- 情報教育レベルの向上による生協のサポートコンテンツの見直し求められる。

ICT・AI技術

- オンライン時代におけるつながりの創造。
- つながり続けるためのオンラインとリアルとの融合。
- キャンパス外でも大学生協とつながれる仕組みづくり。
- “弱いつながり”を包含するつながりの多様化、参加の拡大につながる技術開発。
- 組合員生活向上に、ビッグデータやAIなど今日的データサイエンスの活用。

地球規模の社会的課題

- 気候変動、飢餓、貧困、平和、ジェンダー平等、人間らしい仕事等、SDGsが掲げる地球規模の諸課題への対応。
- 組織と事業が結びついた取り組みを進める。
- これまでの各分野の取り組みをSDGsの目標に沿って位置づける。
- 異文化交流や多様性の尊重などを進めながら、学生が成長し、人と地球に優しい持続可能な社会の担い手になっていく。

2030年に向けて大学生協の守りたい価値、創造したい価値

守りたい価値

- 安全・安心で誠実な、信頼できる大学生協。
- 学生を温かく見守り、寄り添いながら学生生活を支える大学生協。
- 協同・協力・自立・参加を大切にする大学生協。
- 組合員自らがつながり合い、助け合うことで、組合員共通の生活上の課題を解決し、願いを実現できる大学生協。
- よりよい生活、平和、民主主義を希求する大学生協。

創造したい価値

- いつでもどこでも、つながり合い、助け合い、励まし合い、学び合えることが実感できる大学生協。
- 事業活動を通じて、持続可能な社会の実現をリードする大学生協。
- 安心できるコミュニケーションの場で、一緒に、楽しみながら、事業と活動を創り上げている大学生協。
- キャンパスの内外で、他の協同組合や地域社会と連携しながら、学生の生活と成長をサポートしている、大学生協のセーフティネットとしての大学生協。
- 学生の「食」と「学び」を支えるトップランナーとして、組合員と大学から頼りにされ、社会への発信力のある大学生協。

価値を実現するために大切にする視点

組合員の参加と協同で 事業とコミュニケーション を革新する

- 事業と活動への組合員の参加を大切にする。
- 学生の良き理解者、大学構成員みんなの隣人として「一肌脱ぐ」プロフェッショナルな生協職員としてある。

協同組合の価値と 原則を中心に据える

- 大学生協として、大学コミュニティを支え、コミュニティを創造する。
- 組合員の参加による開かれた民主的管理により、自治と自立を実現する。

よりよい社会、よりよい 大学づくりに貢献する

- 大学のブランドと価値を高める。
- 協同体験を通じて一人ひとりの組合員の成長に貢献する。
- 持続可能な社会の実現に貢献する。
- 協同組合や多様なステークホルダーとのパートナーシップで、よりよい社会づくりに貢献する。

2030年までに私たちが実現したいこと

大学生協 2030 Goals

Vision

4

持続可能な社会実現のために実践し、発信する大学生協

Goal

15

各大学生協で、あらゆる事業・活動を通じて、脱炭素や脱プラスチック、食品ロスの削減などの取り組みを進め、持続可能な循環型社会づくりに貢献できている。



Goal

16

事業や活動を通じて消費者教育を進め、組合員の成長を促せる環境ができている。



Goal

17

さまざまな構造的暴力がなく、個人の尊厳が守られ、戦争のない平和な社会をめざす活動に積極的に取り組んでいる。



Vision

1

つながりのプラットフォームとしての大学生協

Goal

01

いつでもどこでも、組合員と組合員、組合員と生協が、親しみを持ってつながり合えるようになっている。



Goal

02

大学キャンパス内の店舗が、組合員どうしのつながりによる「体験の場」「出会いの場」「地域にも開かれた場」としての役割を果たしている。



Goal

03

大学生協の新学期活動が、新入生が大学や仲間と初めてつながり合う場として確立され、大学・社会から認識されている。



Goal

04

大学コミュニティのハブとして、学生・院生・留学生・教職員等、すべてのキャンパス構成員が活動に参加でき、つながり合えるようになっている。



Vision

3

大学生協の頼りになるパートナー、セーフティネットとしての大学生協

Goal

08

組合員のこころとからだを育む生活基盤としての食生活支援事業になっている。



Goal

09

学生一人ひとりの学業継続やキャンパスライフに貢献し、相互扶助や協同の精神を育てている。



Goal

10

学生の生活をサポートし、組合員が自立した大学生を送るための支援事業になっている。



Goal

11

組合員にとって憩い・潤いの場としての生協の事業と店舗になっている。



Goal

12

ジェンダー平等、ダイバーシティの推進に向けた活動や事業環境、職場づくりが実現できている。



Goal

13

協同組合間協同や地域社会との連携で、学生の生活支援・学修支援ができている。



Goal

14

学生生活実態調査や諸種のアンケート・ヒアリング・さまざまな場面での対話活動等を通じて、「日本で一番大学生のことを知っている組織」として、学生の実態を社会に発信し続けている。



— SDGs17Goals に該当する 2030Goals —

(今後の 2030Goals 実践により豊かになっていきます)

